

平成 27 年度 第 1 回播磨町地域公共交通会議 議事概要

日 時	平成 27 年 5 月 29 日（金）10：00～12：00
場 所	播磨町役場 3 階 BC 会議室
出席者	<p>【地域公共交通会議委員】</p> <p>清水 俊博（国土交通省 神戸運輸監理部 兵庫陸運部 首席運輸企画専門官） 木本 和彦（兵庫県 東播磨県民局 加古川土木事務所 所長補佐） 細川 重敏（加古川警察署 交通第一課 課長） 北川 博巳（兵庫県立福祉のまちづくり研究所 グループ長主任研究員） 中澤 秀明（公益社団法人 兵庫県バス協会 専務理事） 中野 悠文（神姫バス株式会社 加古川営業所 副所長） 團野 利男（神姫バス労働組合 執行委員） 工藤 司郎（一般社団法人 兵庫県タクシー協会 東播支部 副支部長） 大辻 國夫（住民代表） 森田 孝（住民代表） 村上 とみ子（住民代表） 福本 大了（住民代表） 清水 ひろ子（播磨町長） 角田 英明（播磨町 理事） 赤田 清純（播磨町 土木グループ統括） 西山 陽子（播磨町 子育て支援センター）</p> <p>【事務局（企画グループ）】</p> <p>岡本 浩一（企画グループ統括） 堀江 直美（企画グループリーダー補佐） 濱田 祐輔（企画グループ主事）</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>岩原 直子（兵庫県県土整備部県土企画局交通政策課 副課長兼地域交通班長）</p>
欠席者	大西 裕一（住民代表）

1. 開会
2. 播磨町長あいさつ
3. 委員紹介
4. 議事
 - (1) 本会議における検討内容及び検討スケジュール

(事務局より資料 01 について説明)

一同)
意見なし。

(2) 公共交通利用促進プロジェクトの取り組み報告

(事務局より資料 02 について説明)

(西山陽子委員より親子バスツアーイベントについて説明)

委員)

補足としては、様々な会議での路線バスに対する要望を頂き、4月のダイヤ改正に伴いできる限り答えるように努力した。これからもお客様の声を取り入れていきたい。

会長)

最初に「重層的な」といいましたが、みんなが力を合わせれば、かなりのものになると思った。

委員)

資料 2 の 3 ページ「ことぶき大学での出前講座」について、運転免許の自主返納と支援制度として、播磨町では自主返納に係る運転経歴証明書交付手数料（1,000 円）の補助等を実施している。5月13日に開催したことぶき大学で制度の説明をされたということで、その反応を伺いたい。

事務局)

この話を聞いて何件か問い合わせはあるが、実際の数字は把握してない。

委員)

運転免許自主返納については、去年の秋頃から検討を進め、平成 27 年度の予算として決定した。広報誌の 5 月号で、施政方針と予算内容の部分において、運転経歴証明書交付手数料の補助等について掲載した。また、私と幹部職員が地元に出向いて、地元の方と行政懇談会を開催しており、その場においても、補助内容等を PR させていただいている。また、様々な会でのあいさつ時にもこの件についての説明はさせていただいている。まだ、補助金交付開始から 2 ヶ月程度で、実績件数がまだ集計できていないので、改めて報告させていただきたい。

会長)

運転免許の返納という事なので、加古川警察の方は、何か知っているか。

委員)

毎日何件かは返納されている。しかし、所轄全体（加古川市、稲美町、播磨町）の事なので、播磨町で何件かは、まだ把握していない。

会長)

播磨町の数字が増えていけば、政策の効果になる。自主返納をすると、路線バスの運賃が半額になるとか、提携店舗や施設での割引など支援もある。

委員)

運転経歴証明書を提示することで、費用負担が軽減されるサービスが受けられるシステムとなっている。県の様々な支援に合わせて、播磨町も協力できる方法を考えていきたい。

委員)

資料2の1ページにある時刻表について、参考までに聞きたい。町の財源負担なしで、広告代理店が集めた企業の広告料金だけで作成したのか？

事務局)

そうである。

委員)

すばらしいと思うので、事例として情報提供させていただきたい。

会長)

全戸配布するのは効果的なことだ。

事務局)

バスに乗らない人は、バス時刻表だけでは捨てるので、電車の時刻表も掲載した。配布は、広報誌と一緒に配布したので、配布の費用だけ町で負担した。

委員)

この時刻表についてですが、タクシーも公共交通機関の一つなので、電車やバスの情報だけではなく、タクシー会社も配車する際に必要となる電話番号なども載せ

て欲しい。タクシー業界は供給過多等の問題もあり、大変厳しい状況に置かれている。タクシーの活性化につながる取組についてもお願いしたい。

会長)

資料2の2ページにあるイベントに、多数の方が集まっておられるが？

事務局)

イベントの参加人数の補足として、神姫バスでプレゼントを400用意した。1家庭に1つ渡した。1家庭3~4人程度と考えて、1,000人前後の参加者があったと考える。

会長)

このような意識を変える取り組みは間が空くと忘れられるので、それまでに実施することが大事。神姫バスもご協力いただきたい。バリアフリーは事業者によって少し考え方が違うが、神姫バスでは低床でベビーカーでも子供を乗せたまま、車いすと同様に乗ることができるような対応をしている、ということでしょうか。

委員)

原則はその通りである。混雑時は、利用者の了解を得て、折りたたんで乗車してもらうようにしている。

事務局)

車いすと同様の方法で固定している。5ページの右の写真を見ていただくと、バスの窓に小さく車いすマークがあるが、その下に取り付けてあるブルーのテープで固定するようになっている。

会長)

高齢者の電動アシスト自転車での事故が多いと聞いた。交通安全と公共交通を一緒に考えるのは大事という意味で、ことぶき大学での出前講座は、良いイベントである。他の自治体にも是非やっていただきたい。路線バスのルートなどについては、利用データをみながら今後の取り組みを考えたい。神姫バスも乗降の利用データがあったら、提供していただきたい。

(3) コミセン便の導入検討について

(事務局より資料03について説明)

会長)

前回の会議でも出たように、コミュニティセンター周辺の課題として、道路が狭く見通しが悪い点や自転車が多いという点があがる。役場内で対応していただいている。ことぶき大学の人など、施設の利用者が多いので対策が必要。また、健康で知的な活動ができる場を提供したい。

委員)

路線バスだけでなく、コミセン便の話題も出していただき光栄だと思っている。

委員)

春に「あえのはま広場」がオープンした。まだ芝生広場は養生中だが、7月には利用可能である。グラウンドゴルフが出来るような広場があり、地域などのイベントも増えてくると思う。また、3年前に廃止になった体育館横のプールの跡地利用として、芝生のある広場を整備中である。フットサルや3on3（三人対三人のバスケットボール）のコート、子供たちが水遊び出来るじゃぶじゃぶ池などの遊水施設の整備を進めており、来年の3月に完成予定である。このような新しいニーズにも対応させてもらいたい。

先ほどの時刻表と同様、先ほど配布した「はりま暮らしの便利帳」も予算を使わず、広告代理店が作成した。町の施設も載せているので、活用していただきたい。

会長)

一般的にコミバスを導入する理由として、医療や買い物のニーズに基づくものが多い。その兼ね合いを考える必要がある。コミバスも健康と関連づけて走らせたい。コミバスの導入ルートとして、路線バスが入れない細い道路やコミセンなどの公共施設がない空白の部分推奨したい。また、まちづくりの一環として、コミセン便の位置付けも考えていきたい。

委員)

本格導入するのであれば、計画内容によっては、国の補助事業も活用できるケースがあるので、情報提供をさせていただきたい。

委員)

7年前、国の補助金で実証運行しようとしたが、議会で反対された。その後、国は路線バスの維持に重点をおいた施策を進めていると聞いている。今回のコミセン便について、国からの補助の可能性はあるのか。

委員)

今の時点では、運行計画等が決まっていないので、補助の要件に該当するものか判断が難しい。路線バスのルートと重複すると、補助対象は困難である。例えば、公共交通がない地域での新しいルート開設や交通不便地域などが明確になれば、補助の可能性はある。

委員)

行政懇談会などの会合では毎回とっていいほど住民から切実な要望として聞いており、町が負担してでも実現しなければならない事業だと思っている。国からの支援等が受けられる可能性があるならぜひ挑戦していきたい。

委員)

具体的に計画が進んだ段階で、改めて相談していただきたい。

会長)

7年前のコミュニティバス計画時と比べ、情勢と変わっている。相談しながら進めていくということが多くなっているの、このような公共交通会議は重要な場になってくる。

委員)

介護タクシーの運賃は、安いのでしょうか。

委員)

介護タクシーの件に関して、車椅子が乗車できる車両を2台所有しているのですが、車両の利用に制限がある。健康な方が乗れないという点と業界全体で減車という問題があり、介護タクシーの車両が減車の対象になった。減車の対象になったことで、運賃形態が見直され、料金が高いハイヤーという形での運行になった。これらを解消できれば、他に利用方法あるだろうという考えもある。コミセン便を考える中で、乗合タクシーに準じるものを検討していただければと思う。バス会社がやると定時定路線になり、タクシー会社がすると呼ばれて対応するという形になる。その利点を生かした活用も入れていただきたい。

会長)

介護タクシーと福祉車両はまた違うものである。ハイヤーという貸し切り制度がある。

委員)

料金が高いという問題と介護の問題のすりあわせができるようご協力していただきたい。その分野でも役割を担えるかもしれないので、低運賃でできるか検討したい。

委員)

タクシーを利用しなければいけない場面もある。

委員)

使われていないタクシーもたくさんある。コミセン便にも活用していただくことができると思うので検討していただきたい。

会長)

良い車両があれば、情報提供をしていただきたい。

委員)

播磨町の土地の形状から考えて狭い道が多い。最終的には、全員が便利に利用していただきたいが、はじめはコミセンからどこかへ行くというルートを考えたい。まず、自宅からコミセンまでは来てもらい町内を移動できるようにする。次の段階として、自宅からコミセンまで来るのが困難な人の移動方法を考えなければならない。以前から、デマンド方式に対しての提案もあるが、今後どこかで検討していく必要があると考えている。現在、播磨町では、障がい者への助成をしているので、それと組み合わせていくことも考えたい。まずは、コミセン便を実現させて、新たなニーズは、今後、関係機関と話し合っていきたいと考えている。

会長)

交通会議でいろんな提案をして欲しい。

委員)

資料3の2ページに関して、会議の進め方として、第2回の会議では、コミセン便について町の案とか出るのか。

事務局)

具体的な案を提示したいと考えている。ルート案等の計画内容について、提示していきたい。

委員)

事業者とすりあわせは、案を考える前にするのか、後にするのか。

事務局)

案を示すにあたって、町だけでやるという訳にはいかないなので、適宜行いたいと考えている。

5. その他

事務局)

本日の議事録については、後日各委員に確認頂きたい。今後のスケジュールとして、次回の会議の詳細な日時は後日連絡を行う。

会長)

今回は、具体的な案を示して頂きたい。現在、狭い道路の例として「かこバス」(加古川市コミュニティバス)、デマンドの場合、丹波市がデマンド(予約)型乗合タクシーを6社で運行している。各地で実践されているので、参考に出来る部分も

あるかと。播磨町では、オリジナルに近い考えで、運行の目的が高齢の方と子育て世代の方を支援というのは、あまりないケースであり、その部分がオリジナルの高い部分である。

副会長)

話を聞いていて播磨町で良かったと思う。町が小さいので、様々なことを実行できる可能性がある。路線バスだけに依存せず、タクシーも活用しながら、播磨町独自の良い企画を練っていただいて、提示してもらうことで、良い方向に向かうと思う。

6. 閉会

以上